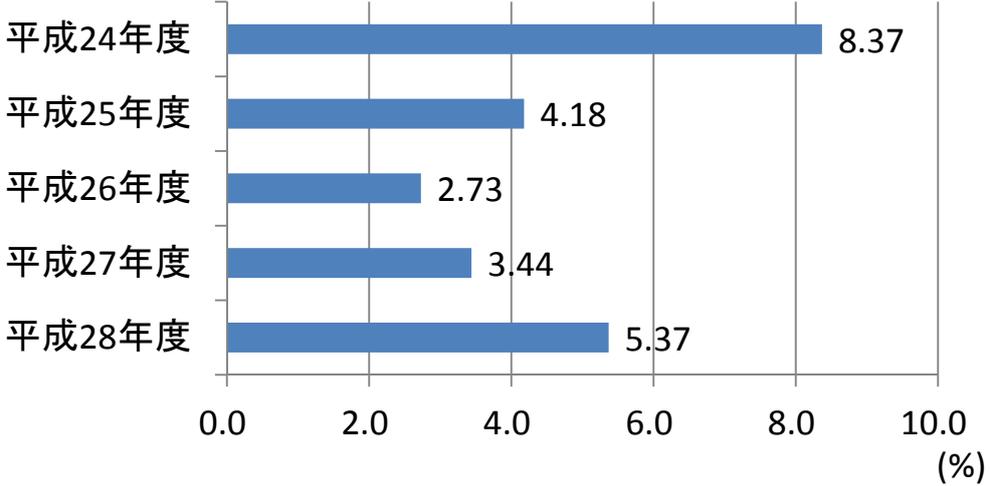




22 CPC(臨床病理検討会)の検討症例率

解説	CPC(臨床病理検討会)とは、臨床医・病理医・検査担当医などが、治療中に院内で死亡し病理解剖が行われた症例について診断や治療の妥当性を検証する症例検討会のことで、診療行為を見直すことで得られた知見を、今後の治療に役立てるために行われます。医学生、研修生の教育にも寄与するもので、その取り組みの状況を表現する指標です。												
実績	 <table border="1"><thead><tr><th>年度</th><th>検討症例率 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>平成24年度</td><td>8.37</td></tr><tr><td>平成25年度</td><td>4.18</td></tr><tr><td>平成26年度</td><td>2.73</td></tr><tr><td>平成27年度</td><td>3.44</td></tr><tr><td>平成28年度</td><td>5.37</td></tr></tbody></table>	年度	検討症例率 (%)	平成24年度	8.37	平成25年度	4.18	平成26年度	2.73	平成27年度	3.44	平成28年度	5.37
年度	検討症例率 (%)												
平成24年度	8.37												
平成25年度	4.18												
平成26年度	2.73												
平成27年度	3.44												
平成28年度	5.37												
定義	CPC(臨床病理検討会)の件数を死亡患者数で除した割合(%)です。 自院での死亡退院を対象とします。学外で病理解剖が行われた症例について、病理解剖を担当した医師を招いて実施した症例は検討症例数に含めます。												